

様式第 1 - 3 別紙

宿泊事業者等団体

名称	一般社団法人 三好市観光協会			
住所	徳島県三好市池田町サラダ1810-18			
代表者氏名	会長 谷口 宏			
連絡先	電話 : 0883-76-0877 FAX : 0883-76-0876			
構成員	丸石パークランド、 <u>新祖谷温泉</u> ホテルかざら橋、 <u>あわの抄</u> 、 <u>松尾川温泉</u> しらさぎ荘、 <u>峡谷の湯宿</u> 大歩危峡まんなか (構成者 5 者、うち補助対象事業者 4 者 (計画時 4 者))			
団体事業	具体的な内容			
	実施時期			
	必要な資金の額及びその調達方法			
個別事業	具体的な内容	トイレの洋式化 1 件、 Wi-Fi整備 5 件、 パスポートリーダーの整備 1 件		
	実施時期	平成 2 8 年 1 2 月 8 日～平成 2 8 年 1 2 月 2 2 日		
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象経費合計 6,605,810円 補助金合計 3,052,000円		
全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前> H27年度	<目標> H29年度	<実績値> H29年度
	第 1 四半期	22.80 (%) (30.55)	23.43 (%) (31.59)	69.9 (%)
	第 2 四半期	32.47 (%) (43.29)	33.34 (%) (44.73)	79.1 (%)

	第3四半期	44.86 (%) (65.06)	45.59 (%) (66.27)	71.5 (%)
	第4四半期	37.24 (%) (58.71)	38.20 (%) (60.30)	49.7 (%)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	大きく目標達成ができた。対目標四半期平均値：147% 市内の大歩危・祖谷地域に所在する5つの宿泊施設を中心に組織される任意団体「大歩危・祖谷いってみる会」と、当協会及び三好市、徳島県等では、国のインバウンド政策の開始当初から、官民連携を誘客戦略の柱に掲げながら、海外現地営業や国内での海外向けプロモーション等を10数年前から積極的かつ継続的に取り組んできた成果が、ここ数年でようやく形として見えつつある。また、各種メディアでこの地域を取り上げて頂き露出効果も好影響している。特に大歩危・祖谷地域を中心に外国人宿泊者数が急増していることから、市内全体の外国人宿泊者数の増加を牽引しており、今回の目標達成につながった理由と思われる。但し、第四・四半期（冬期期間）のみ路面凍結・観光施設冬期休暇等のため、目標値に到達できなかった。			
合計外客宿泊者数の目標及び実績値		<事業開始前> H27年度	<目標> H29年度	<実績値> H29年度
	第1四半期	1,696 (人) (1,644)	1,868 (人) (1,818)	2,361 (人)
	第2四半期	1,444 (人) (1,400)	1,591 (人) (1,549)	2,011 (人)
	第3四半期	2,267 (人) (2,198)	2,498 (人) (2,431)	3,939 (人)
	第4四半期	1,401 (人) (1,358)	1,544 (人) (1,502)	1,855 (人)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	大きく目標達成ができた。対目標四半期平均値：136% 市内の大歩危・祖谷地域に所在する5つの宿泊施設を中心に組織される任意団体「大歩危・祖谷いってみる会」と、当協会及び三好市、徳島県等では、国のインバウンド政策の開始当初から、官民連携を誘客戦略の柱に掲げながら、海外現地営業や国内での海外向けプロモーション等を10数年前から積極的かつ継続的に取り組んできた成果が、ここ数年でようやく形として見えつつある。また、各種メディアでこの地域を取り上げて頂き露出効果も好影響している。特に大歩			

	<p>危・祖谷地域を中心に外国人宿泊者数が急増していることから、市内全体の外国人宿泊者数の増加を牽引しており、今回の目標達成につながった理由と思われる。全四半期を通じて、目標値を達成できた。</p>
<p>その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策</p>	<p>当市において、ここ数年、外国人宿泊者数が増加傾向にあるが、全国的にも同様に増加傾向にあり、観光地間での競争が激化している。このため、外国人旅行客の訪問先として当市を選んでいただくには、今後は、これまでの官民連携による取り組みの継続化だけでなく、外国人旅行客向けの受け入れ環境整備を質量共に改善していくことが重要である。このような中、今回、4施設を対象に Wi-Fi整備、トイレの洋式化、パスポートリーダーの導入を進めることができたことで一定の効果が期待できる。今後、市内にまだ多くある未整備の施設に対する継続的なフォローが必要と思われる。また、冬期の利用稼働率向上のための対策が今後の課題である。</p>

様式第 1 - 3 別紙

宿泊事業者等団体

名称	日本旅館協会四国支部連合会 香川県支部	
住所	〒760-0021 香川県高松市西の丸町10番15号 西の丸ビル3階	
代表者氏名	飯島 彰	
連絡先	087-851-2661	
構成員	<p>ビーチサイドホテル鹿島荘、<u>小豆島グランドホテル水明</u>、<u>ホテルグリーンプラザ小豆島</u>、<u>チェレステ小豆島</u>、<u>松風</u>、<u>小豆島国際ホテル</u>、<u>ベイリゾートホテル小豆島</u>、<u>ホテルニュー海風</u>、<u>オークラホテル丸亀</u>、<u>城山温泉</u>、<u>ホテル入浜</u>、<u>四国高松温泉ニューグランデみまつ</u>、<u>ホテル福屋</u>、<u>高松ターミナルホテル</u>、<u>喜代美山荘花樹海</u>、<u>こんびら温泉湯元八千代</u>、<u>シャトーエスト高松</u>、<u>あづまや旅館</u>、<u>瀬戸内荘</u> (構成員 19者、<u>うち補助金対象事業者 16者</u> 計画時 19者)</p>	
団体事業	具体的な内容	
	実施時期	
	必要な資金の額及びその調達方法	
個別事業	具体的な内容	(1)Wi-Fi整備 7件 (2)トイレの洋式化 5件 (3) 自社サイトの多言語化 7件 (5)案内表示の多言語化 1件
	実施時期	平成28年11月15日～平成28年12月26日
	必要な資金の額及びその調達方法	補助金対象経費合計 22,741,501円 補助金合計 10,174,000円

全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期	55.0 (%) (56.2)	62.3 (%) (61.4)	58.3 (%)
	第2四半期	63.3 (%) (63.8)	69.8 (%) (67.8)	67.1 (%)
	第3四半期	58.6 (%) (59.6)	64.2 (%) (62.3)	64.0 (%)
	第4四半期	50.0 (%) (53.3)	54.2 (%) (52.2)	57.8 (%)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	<p> 毎回、申し上げておりますが、集計を行う上で問題点は、ホテル・旅館、大中小の規模別の違いがあり、他の施設が良くても悪くても大規模一施設の数値の変化に大いに影響を受けます。また、外国人観光客の受け入れを積極的に行っていない施設もあり、温度差があります。 </p> <p> グループ全体としては、伸びは見られませんが何とか目標に届きました。 </p> <p> 当団体は当初申し上げた通り、広域であります。全国的に見ると最小の県でありますので観光地がコンパクトにまとまっており観光のお客様は回遊が可能です。そこで、宿泊業のグループは「日本旅館協会36」「香川県ホテル旅館生活衛生同業組合104」の施設があり双方とも会員が重複しております。また香川県当局はLCCの韓国・中国・台湾の直行便の誘致増便を積極的に誘致しております。その結果は良好で2016年は伸び率全国1位となりましたが2017年は伸び率の全国順位は少し下がりましたが、延べ人数の順位は前年から一つ上がって22位となり、中四国では広島県に次いで16位でありました。今後はリピーター率の向上がこれからの課題と考えております。平成30年度は全国に先駆けて空港の民営化が控えており、目先の数字よりも目標に向かって前進するには、県全体の受け入れ態勢の向上を図ることが急務だと考えております。 </p> <p> 香川県にとってはインバウンドの増加が、ビジネス、国内観光の落ち込みをカバーできたと考えております。 </p>			

合計外客宿泊者数の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期	4232 (人) (4112)	7,983 (人) (5,414)	14,807 (人)
	第2四半期	3906 (人) (3772)	7,495 (人) (4,843)	13,905 (人)
	第3四半期	5873 (人) (5709)	10,265 (人) (7,261)	14,883 (人)
	第4四半期	3356 (人) (3171)	5,047 (人) (4,597)	7,866 (人)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	<p>上記に記載した理由で、全体的に各期とも伸びていっています。</p> <p>特に、外国人観光客は、香川県当局の地道な努力により宿泊施設に大きな成果をもたらしました。(観光協会会長は、インバウンド特に台湾に数百回訪問している実力派の会長を、当団体より輩出しており県知事の英知努力と相まってローカル県としては最高の条件を備えていると思います。) また、客室数は多くはありませんが、宿泊定員のキャパが大きい施設が多くありますので(旅館型)その効果もあったと思われます。</p> <p>ただ懸念材料として、当団体にとっては「いわゆる民泊問題」今後伸び率に影響してくる可能性があります。</p>			
その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策	<p>インバウンドの増加は、ビジネス、国内観光の落ち込みをカバーし、地方都市としては全国的見ても好調であります。</p> <p>香川県当局が外国人観光客の誘客を図る施策を進めている間に、その受け入れ態勢の整備が急務と考えており、インバウンドに関しては受け入れ態勢が他県比非常に後れを取っていると考えています。四国ではトップの伸び率、客数もトップであります。リピーターの順位は下位に甘んじており、これが今後の課題の一つだと考えております。</p> <p>また、人口減少、高齢化により国内観光は下降線をたどっています。そこで、今のうちに外国人受け入れ態勢の改善を図るため今まで通り、各施設の館内外国語の表示を行うこと、防災非難の誘導の案内等を整備(標準化)行っていきたいと考えております。</p> <p>予定通り事業を進めて事業の目標を達成するように指導を行い、特に外客に関しては、県とタイアップをしておもてなしを推進しリピーター率を向上さすよう指導を行いたいと考えております。</p>			

様式第 1 - 3 別紙

宿泊事業者等団体

名称	日本旅館協会愛媛県支部インバウンド協議会			
住所	〒790-0842 愛媛県松山市道後湯之町 6 - 8			
代表者氏名	大木 勝也			
連絡先	0 8 9 - 9 3 1 - 0 6 3 8			
構成員	ハーバープラザホテル、オールドイングランド道後山の手ホテル、大和屋本店、奥道後壱湯の守、大潮荘、美賀登、茶梅、ホテル七福、ケーオーホテル、東京第一ホテル松山、ホテルサンルート松山、旅館さわき (構成員 1 2 者、内補助対象事業者 1 2 者)			
団体事業	具体的な内容	実施せず		
	実施時期	実施せず		
	必要な資金の額及びその調達方法	実施せず		
個別事業	具体的な内容	(1) Wi-Fi整備 5 件、(2) トイレの洋式化 4 件、 (3) サイトの多言語化 1 件、(4) 国際放送設備の整備 1 件 (5) 案内表示の多言語化 1 件、(7-2) タブレット端末の導入 3 件		
	実施時期	平成28年11月14日～平成28年12月30日		
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象経費合計 17,531,404円 補助金額 8,307,000円		
全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期	59.7 (%)	63.3 (%)	64.5 (%)
	第2四半期	63.5 (%)	64.2 (%)	70.0 (%)
	第3四半期	63.9 (%)	64.5 (%)	73.8 (%)
	第4四半期	60.3 (%)	63.2 (%)	67.7 (%)

<p>目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)</p>	<p>四国では4月～6月にJRと自治体共同主催の大型観光キャンペーン四国DCが開催され、四県が一丸となり観光素材を発信したことにより、四国の宿泊客数は対前年比5.8%増となったが、道後温泉を中心にその効果が表れている。また、国体開催前にデモスポが4月から開催、9月から10月に掛けて国体・障がい者スポーツ大会が開催され、今年度はスポーツイベントの受入先としての要素が濃い1年であった。新しい観光スポットとして9月26日には、国体開催に合わせて「道後温泉別館飛鳥乃湯泉」がOPENし、官民一体となって誘客を行っている。</p>			
<p>合計外客宿泊者数の目標及び実績値</p>		<p><事業開始前></p>	<p><目標></p>	<p><実績値></p>
	<p>第1四半期</p>	<p>5490 (人)</p>	<p>7648 (人)</p>	<p>8873 (人)</p>
	<p>第2四半期</p>	<p>4813 (人)</p>	<p>5890 (人)</p>	<p>6197 (人)</p>
	<p>第3四半期</p>	<p>9315 (人)</p>	<p>9863 (人)</p>	<p>9276 (人)</p>
	<p>第4四半期</p>	<p>7246 (人)</p>	<p>7799 (人)</p>	<p>9386 (人)</p>
<p>目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)</p>	<p>9月～10月は愛媛県では64年振りの開催となる愛媛国体が開催された。この期間、国体関係者の宿泊先としての機能を果たしていたために、インバウンドに限らずビジネス客・観光客の受入対応は難しい期間となった。 11月2日には、LCC 済州航空松山ーソウル線が週3便就航、11月中台湾チャーターが10往復し、インバウンドの受入は、急激に伸びたと思われる。1月に入ってから、済州航空は搭乗率90%台で推移しており、定期航路の開設が誘客に直結していることを具現化している。</p>			
<p>その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策</p>	<p>3月25日には、アイベックスエアラインが、四国で唯一の北海道への直行便を開設し、インバウンドに人気の札幌路線の開設となり、今後に期待ができる。 また、4月14日からは「道後オンセナート」が2月28日の約1年間開催され、道後地区の旅館・商店街を中心に新進気鋭の作家の作品群を随所で見ることができ、歴史と芸術が融合したこの期間は独特の雰囲気を楽しむことができる。 10月には、瀬戸内しまなみ海道で7000名規模の国際的なサイクリング大会が開催される。日本で唯一、高速道路本線を走ることが出来るサイクリング大会は、しまなみ海道のみであり瀬戸内の多島美の絶景を堪能できるコースは、今や「サ</p>			

	<p>イクリストの聖地」といわれるまでとなり、非常に人気が高い。ハード面での環境整備プラスアルファ、ソフト面でも「四国遍路文化」で培われた「お接待」の精神を発揮し更なるリピータの獲得に繋げていきたい。</p>
--	--

様式第 1 - 3 別紙

宿泊事業者等団体

名称	内子・大洲インバウンド遍路推進協議会			
住所	〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子262番地			
代表者氏名	(株)ジェイジェイ旅行センター 代表取締役 池田 央			
連絡先	0893-44-5788			
構成員	(株)ジェイジェイ旅行センター、旅館松乃屋、HOTELこころ、くら、ふじや旅館、ホテルオータ、へんろ民宿来楽苦（構成員6者、内補助対象事業者5名）			
団体事業	具体的な内容			
	実施時期			
	必要な資金の額及びその調達方法			
個別事業	具体的な内容	トイレの洋式化1件、Wi-Fi整備3件、客室の和洋室化 1件		
	実施時期	平成28年11月11日～平成28年12月30日		
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象経費合計 4,232,674円 補助金合計 2,114,000円		
全体稼働率の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期	33.4 (%)	41.4 (%)	36.0 (%)
	第2四半期	41.0 (%)	49.0 (%)	36.6 (%)
	第3四半期	35.1 (%)	43.1 (%)	44.9 (%)
	第4四半期	29.5 (%)	37.5 (%)	31.0 (%)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5事業者のうち4事業者が立地する地域内に、安価な料金を売りとする大型のビジネスホテルが開業。安価料金を求める宿泊客がこちらに流出したのではないか。 ・ 1事業者の経営者が、H29年春先より体調を崩し営業を休止、同年8月に死去。以降、継続して営業開始に至らず、全体の数値を押し下げた。 			

合計外客宿泊者数の目標及び実績値		<事業開始前>	<目標>	<実績値>
	第1四半期	65 (人)	85 (人)	111 (人)
	第2四半期	80 (人)	100 (人)	57 (人)
	第3四半期	69 (人)	89 (人)	54 (人)
	第4四半期	58 (人)	78 (人)	90 (人)
目標を達成した理由 (達成できなかった場合はその理由)	第2及び第3期において目標を大きく下回った。当地域の観光地としての注目度・集客が期待していたほど急激に伸張しなかったからではないかと考える。			
その他事業評価に関する事項及び当該事業評価を踏まえた次の一年間における事業の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・四国運輸局と行政（内子町）の推進する外国人旅行者の受入環境整備を通じた地域活性化事業（受託：JTB中国四国松山支店）の一環として推進したクレジット取扱につき、5事業者のうち取扱の無かった3事業者が、29年12月より取扱を開始。全ての事業者において、クレジットが利用できるようになった。あわせ、30年春には、同事業によって5事業所のうち4事業所を含む他国語対応の外客向け観光パンフレットも完成の予定で、同パンフレットの活用やモニターツアー等によって、外客の誘致、拡大が見込まれる。 ・経営者の死去によって営業を休止している1事業者についても、後継者による早期の営業再開を進めたい。 ・29年11月より、休止していた松山～ソウルの航空便運行が再開された。同顧客の入込み、獲得も期待できる ・これらの総合的な取組みは、県内他市町と比べても先進的と認められ、当地域での外客獲得の可能性は高いと考える。現実には、直近の第4四半期では目標値を大幅に上回っており、前述のパンフレットやモニターツアーが実効してくるのはH30年夏～秋と見込まれ、各種取組みの相乗効果が本格化するのこれからである。 			